

群 教 セ	G10 - 01
	令 2.275 集
	道徳

# 互いの意見を伝え合い、道徳的価値の理解をより深めることのできる生徒の育成

— 1人1台端末による授業支援ソフトの活用を通して —

特別研修員 武尾 暁

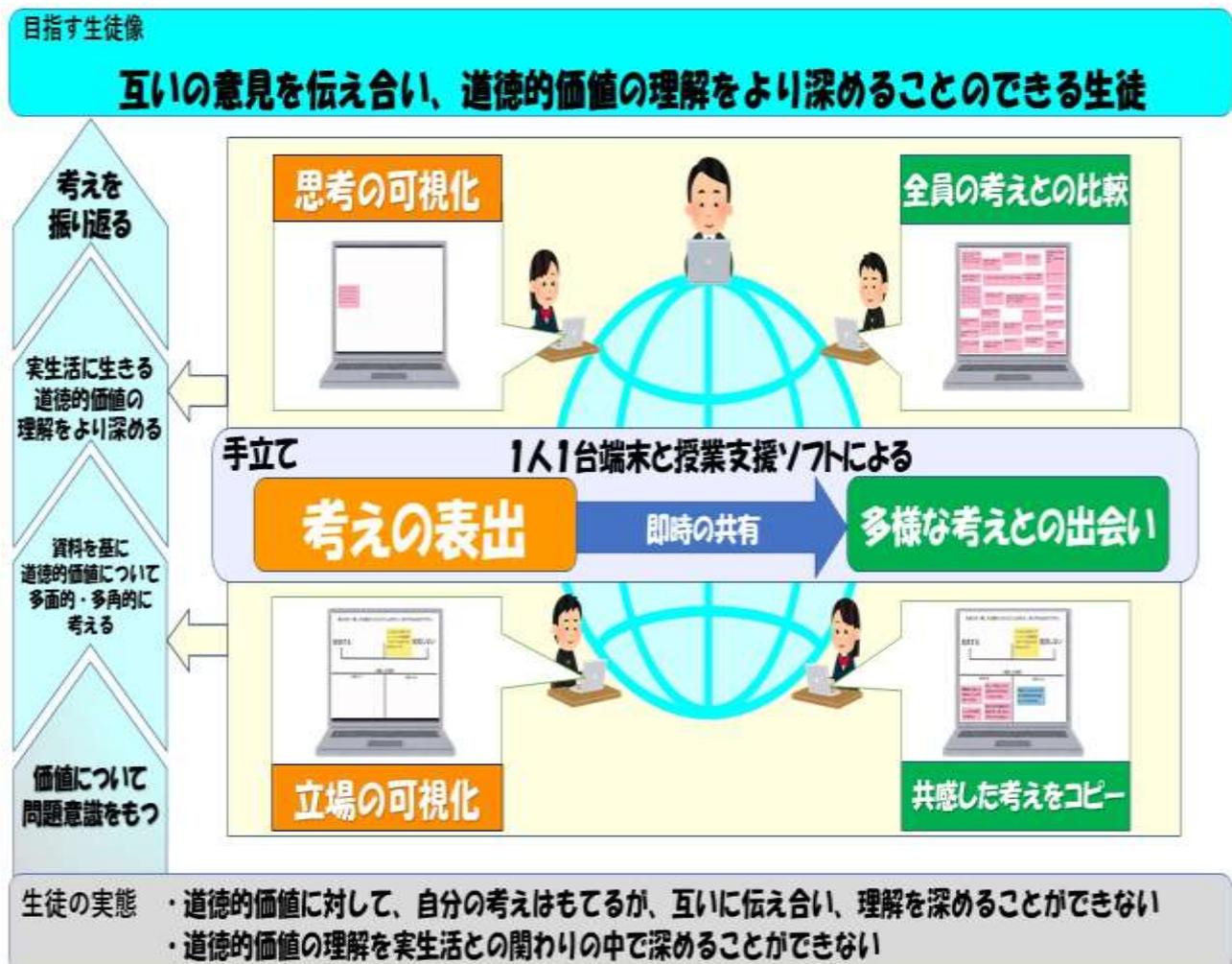
## I 研究テーマ設定の理由

『はばたく群馬の指導プランⅡ』では「児童生徒が常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して人間としてのよりよい生き方を考えていく」授業の実践が求められている。

中学生のこの時期には、教材を通して道徳的価値に対して自分の考えをもつことができる生徒が多いものの、それを互いに伝え合い、理解をより深めることのできる生徒は少ない。生徒は自分だけの考えにとどまることがなく、様々な立場や多くの考えに触れ、自分の考えと比較しながら道徳的価値の理解をより深めていくことが大切である。そのためには、1人1台端末を活用して考えを表出し、共有しやすくする必要があると考えた。さらに、学んだ道徳的価値を実生活と関連付けて考える場面でも1人1台端末を活用し、生徒に道徳的価値を自分事として捉えさせることで道徳的価値の理解をより深めることができると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

道徳の授業において、生徒が互いに意見を伝え合い、道徳的価値の理解をより深めるためには、1人1台端末と授業支援ソフトを活用し、それぞれの考えを表出することや共有機能を用いて多様な考えと出会うことが有効だと考え、次の手立てを以下の二つの場面で具体化した。

手立て 考えを表出させる活動と多様な考えと出会う活動の設定

場面① 資料を基に、道徳的価値について多面的・多角的に考える場面での活用（立場の可視化）

場面② 実生活に生きる道徳的価値の理解をより深める場面での活用（思考の可視化）

### 場面①について

資料を読み、自分が登場人物の立場だったらどうするかを考え、全体で交流する場面で1人1台端末と授業支援ソフトを活用する。実施手順については以下の通りである。

- 中心発問や補助発問をする場面で、自分がその立場だったらどうするかを考え、タブレット端末と授業支援ソフトを用いて、自分の立場や考え及びその理由を可視化する。
- 可視化した意見を共有し、共感した意見や納得できない意見を自分のページにコピーする。
- なぜそのように考えたのかを互いに質問し、議論する。

### 場面②について

中心発問で迫った道徳的価値が実生活のこういった場面で生きているかを考え、価値の理解をより深める場面で、タブレット端末と授業支援ソフトを活用する。実施手順については以下の通りである。

- 中心発問で本時のねらいとする道徳的価値に迫る。
- 迫った道徳的価値が実生活のどのような場面で生きているかを考える。
- 授業支援ソフトを用いて生徒一人一人が自分の考えを書き込み、共有する。全員の考えと比較する活動を通して道徳的価値の理解をより深める。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 場面①において、タブレット端末等を用いて生徒の立場や考え及びその理由を可視化・共有したことにより、短時間で多くの考えに触れることが容易になった。その中で、道徳的価値に対する多面的・多角的な考えに触れ、理解を深めている様子を見取ることができた。
- 場面②において、タブレット端末を用いて、生徒がそれぞれ考えたことを授業支援ソフトで共有することにより、クラス全体の考えを知ることができた。そのため、実生活の中で生きる道徳的価値について多面的・多角的に捉え、道徳的価値の理解をより深めている様子を見取ることができた。また、道徳的価値をより身近なものとして捉えることができたため、授業の終末における振り返りを記入する場面では、自分のこれまでの実生活を振り返り、授業で学んだことを今後どう生かしていくかを考えている記述を見ることができた。

### 2 課題

- タブレット端末の活用については生徒が多くの意見に触れ、自分の考えと比較することで多面的・多角的に考えることについては有効であった。しかし、生徒の道徳的価値の理解をより深めるためには、生徒の多様な考えを基に教師がファシリテーターとして整理・選択することで、生徒の考えを揺さぶる必要がある。教師のファシリテーションの能力を向上させることや、より深い価値理解につながる授業展開を構想していく必要性を感じた。

## 実践例

- 1 主題名 法やきまりの意義 内容項目 C-(10) (第2学年・2学期)  
教材名 「オーストリアのマス川」 日本文教出版「あすを生きる2」

### 2 本主題について

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

きまりとは公德心に支えられるものであり、それを守ることにより、自分自身や他者の権利が尊重され、社会全体に安定が生まれる。だが中学生の年代では、そのきまりを他律的なものと捉え、自分たちを拘束するものとして反発する思いが出てくる。それぞれのきまりがなぜ存在するのかを考えることを通して、そのきまりがあることにより自分の生活や社会の秩序が保たれていることに気付き、それらを維持するためにも、法やきまりを自律的に守り、よりよい社会を実現させようという態度を育てたい。

#### (2) 生徒の実態について

多くの生徒は、学校内の多くのきまりの存在については理解している。しかし、きまりについて不満をもつ生徒や、守ることのできない生徒がいる。また、その意義については十分に理解せず、「きまりだから」という理由で守っている生徒も少なくない。そこできまりにはそれぞれ意義があり、それを守ることによって、自分たちの生活の安定があるのだということに気付くことで、自律的に守り、秩序を保とうという態度を育てたい。

#### (3) 教材について

本教材では、釣りが趣味である主人公が、釣り捕っていい魚の大きさや解禁日に厳格な制限のあるオーストリアの川で初釣りをする。主人公は、2キロはあろうという大物を釣り上げるが、解禁日前だったため、釣り上げた魚をためらいながらも放流する。きまりを守らなくてはいけないという意識と、自分の欲求に伴う人間的な弱さによって生まれる葛藤に共感させつつ、最終的にはきまりを守り、魚を放流する主人公の行動から、きまりの意義について理解し、自分の弱さに負けず秩序を守るためにも法やきまりを守ろうという態度を育てたい。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、1人1台端末と授業支援ソフトを活用し、考えを表出し、多様な考えと出会う手立てを以下の二つの場面で具体化した。

#### 場面① 資料を基に、道徳的価値について多面的・多角的に考える場面での活用（立場の可視化）

自分が主人公の立場だったら、手にした大物を放流するか、しないかを考える場面で、授業支援ソフトを用いてその理由とともに立場を明確にさせる。その後、共有機能を用いて、他の生徒の立場とその理由を見合い、自分が共感した考えを選び、コピーさせる活動を設定する。そしてそれぞれが共感した理由を基に道徳的価値の様々な側面に目を向けさせることで、生徒が価値について多面的・多角的に考え、理解を深められるようにする。

#### 場面② 実生活に生きる道徳的価値の理解をより深める場面での活用（思考の可視化）

本時では導入で「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまり」について生徒に問い掛け、それを板書として残しておく。生徒に中心発問で考えた道徳的価値であるきまりの意義を基に、導入で出た「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまり」が存在する理由について考え直させ、一枚のページに書き込ませる。その後、共有機能を用いて、他の生徒の考えと自分の考えを比較させ、きまりがある理由についてより深く考えさせることにより、実生活で生きている道徳的価値についても多面的・多角的に捉え、道徳的価値の理解を深められるようにする。

#### 4 授業の実際

本時においては、生徒が道徳的価値の追求に費やす時間を十分に確保するため、資料の前半部分は朝読書の際に事前に配付し、読ませておくとともに資料に関する問いを設けておいた。

導入では「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまりについて問い、道徳的価値に対する現在の生徒の捉え方を確認すると同時に、資料に近い場面を実体験の中から想起させ、本時で扱う道徳的価値を自分事として考えられるようにした。

展開前段では、資料の前半部分に出てくる「大物を釣り上げたときの主人公の気持ち」を確認した後、資料の後半部分を配付、範読した。そして、「解禁日を過ぎていないと気が付いたときの主人公の気持ち」を確認することで、きまりと自分の欲との間で揺れる主人公の気持ちに共感させ、場面①へ進んだ。

#### 場面① 資料を基に、道徳的価値について多面的・多角的に考える場面での活用（立場の可視化）

発問 あなたが「主人公」の立場だったら放流しますか。放流しませんか。それはなぜですか。  
 補助発問 共感した考えはどれですか。またそれはなぜですか。

授業支援ソフトを活用し、それぞれの立場を可視化したところ、「放流する」というきまりに対して肯定的に考える意見が多かった。その理由としては「ルールがあるから仕方がない」「ルールを守らないことによって何か罰則があるかもしれない」という他律的にルールを守る考えが多く見られた。また「罪悪感から釣りの楽しさが半減してしまう」と自分の良心から守ろうという考えも見られた。

一方、「放流しない」という立場では、「これだけ大きくて珍しいものが釣れたので放流したくない」という考えもあった。可視化した考えを基に同じ立場だが理由の違う生徒を指名し、集約した後、互いのページを見合い、共感した考えを選ぶ活動を行った。その中で生徒たちは自分の考えに近いものや、自分になかった考えの付箋を画面上でコピーしていた。その後、考えに共感した理由を尋ねると「ルールを破ってしまう罪悪感自分も覚えてしまうと思う」といったことや「定められた規則はやはり守らなくてはならない」と答え、道徳的価値の様々な側面に目を向けていた（図1）。この発問により出てきた、きまりに関する道徳的価値についてより深く考えられるようにするため、中心発問「僕が釣れた大物を放ったのはなぜだと思いますか」と補助発問「この川のきまりにはなぜあるのでしょうか」に進んだところ、「ルールを守った上で楽しみたいと思ったから」「魚がいなくなってしまうようにするため」といった考えが出てきた。

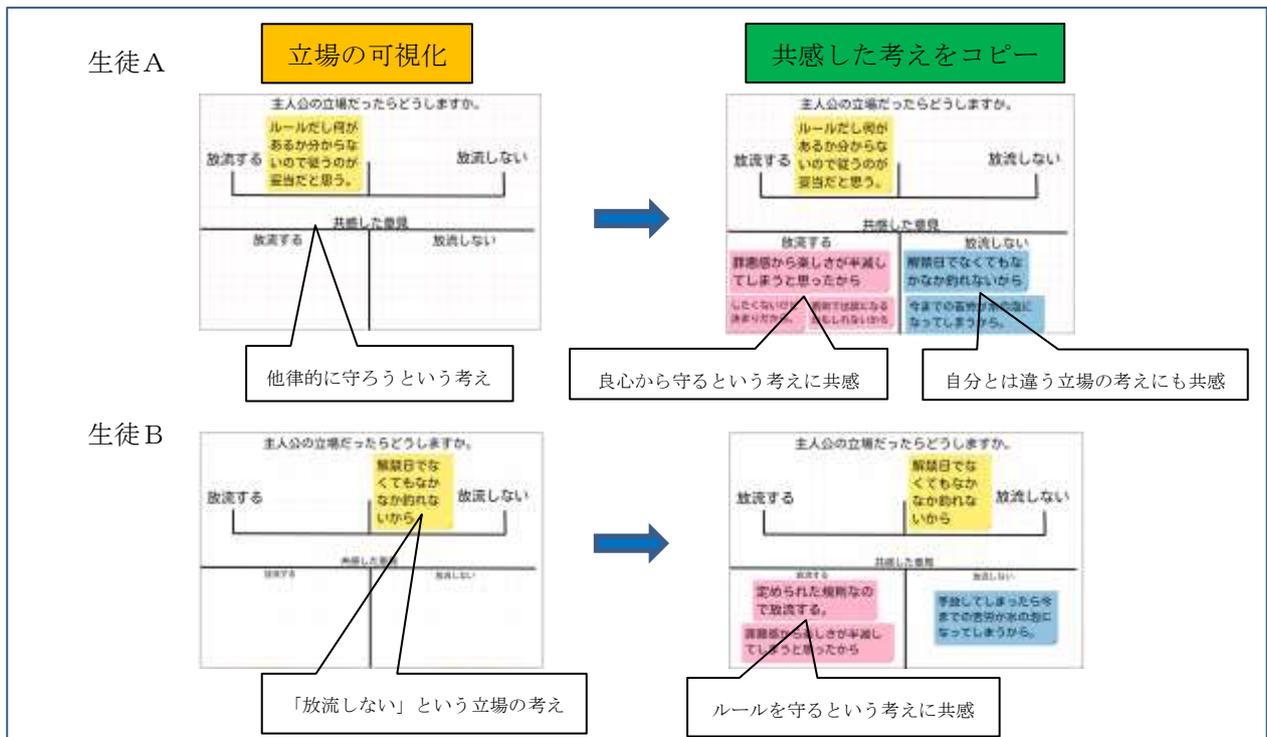


図1 場面①において、友達の考えから道徳的価値を深めている様子

そこで出てきた考えを基に、場面②へ進んだ。

### 場面② 実生活に生きる道徳的価値の理解をより深める場面での活用（思考の可視化）

発問「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまりは何のためにあるのでしょうか。

導入で出た「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまり」の意義について考えたことを授業支援ソフトの付箋に記述し、比較する活動を行った。そして「きまりって何のためにあると思う」と問い掛けると、生徒たちは、自分が考えたことに加え、「自分のためでも他人のためでもある」という考えや「安全のため」「平等のため」という考えに気付き、実生活でのきまりに関して多面的・多角的に考えていた（図2）。

それを受けて終末では振り返り活動を行った。授業の導入では「罰則があるかもしれないのできまりを守る」といった考えをもっていた生徒も振り返りでは、「ルールは自分のためでなく、他人のために守るものでもある」と記述し、実生活の中での道徳的価値について、多面的・多角的に捉え、道徳的価値への理解を深めていた。また、授業の前段ではきまりを守ることよりも、「放流しない」という立場だった生徒も振り返りでは、「きまりが何のためにあるのか考えることができ、守る意識が高められた」と本時で学んだことを実生活につなげていこうという記述をしていた。また多くの生徒の振り返りの中で、「ルールの意味を考えて生活していきたい」と学んだ道徳的価値を実践していこうという記述を見ることができた（図3）。

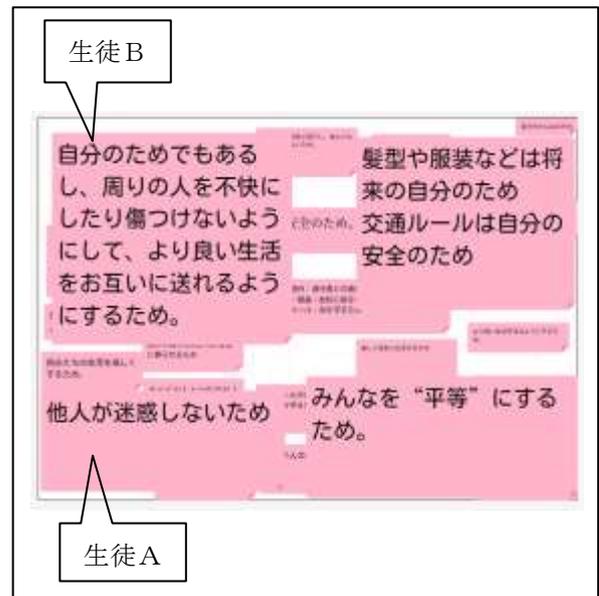


図2 場面②において、即時共有した生徒の考え

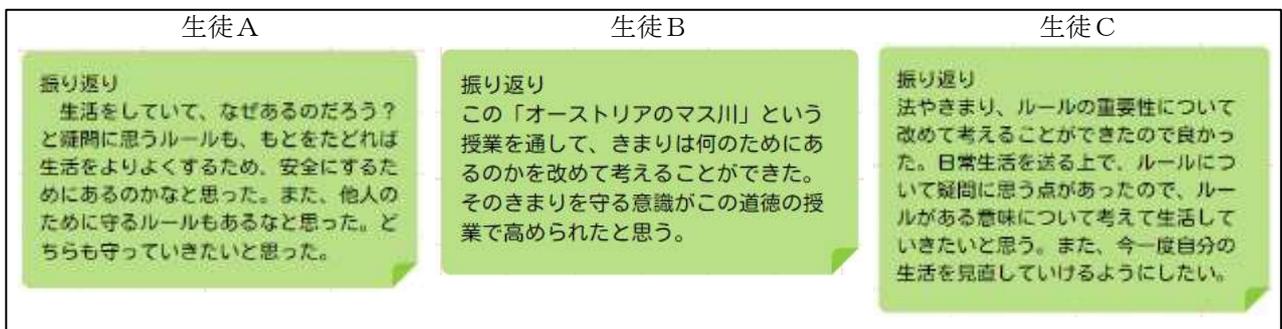


図3 生徒による振り返り

## 5 考察

1人1台端末と授業支援ソフトを活用することにより、自分の考えや立場を容易に表出することができていた。また共有機能を用いることで、短時間で全員の考えに触れることができていた。それにより、その後の共感した考えを選ぶ活動や全員の考えと自分の考えを比較する活動では、多くの生徒が今まで自分になかった考えを基に道徳的価値の様々な側面に目を向けていたことから、この手立ては生徒が道徳的価値を多面的・多角的に考え、理解をより深めていくために有効だったと考えられる。また振り返りの記述には、これからの生活についての記述が多かった。これはこの手立てによって道徳的価値を自分事として捉えられたことが、実践意欲につながっていたと考えられる。

1人1台端末については、考えを表出させるための活用と全体での共有を容易にするための活用にも有効性を見いだすことができた。今後は、生徒の振り返りを授業支援ソフト上に記入させ、ポートフォリオ形式にしておき、生徒に道徳の授業を通しての自分の変容を自覚させるなど情報の保存性についての有効性も検証していきたい。また、瞬時に変容を見取ることができるため、教師の評価の際にも活用されることが期待できる。他にも様々な場面での有効性が期待できるため、今後も積極的に活用していきたい。